

降誕告知の羊飼い**ルカ2:8~20 / 李正雨師**

福音書には、三つの天使の告知があります。第一は、洗礼者ヨハネについての受胎告知です。第二は、昨日イブ礼拝の福音書であったイエス様についての受胎告知です。第三は、今日の福音書であるイエス様の誕生についての告知です。最初の告知は、洗礼者ヨハネの父であるザカリアに伝えられます。そして第二の告知は、イエス様の母であるマリアに伝えられます。ところで、第三の告知は、親でも親戚でもない人々に伝えられます。今日の福音書は、この第三の告知がベツレヘムの羊飼いに伝えられたと語っています。本当に面白い言葉だと思います。第一、第二の告知は、縁がある人に伝えられましたが、第三の告知、イエス様の降誕の告知は、縁のない人々に伝えられたのです。

なぜイエス様の誕生の告知は、イエス様と縁のない羊飼いに伝えられたのでしょうか。もしやイエス様と羊飼いにに関する預言があったのでしょうか。聖書の中で、イエス様の誕生が羊飼いに知られるという預言はありません。しかし、旧約聖書での神様は、イスラエルの牧者と保護者として描かれ、イザヤ書では、メシアは子羊として描かれました。これだけでなく、イスラエルで最も偉大な王であったダビデは、羊飼い出身でした。サムエル記上の16章を見ると、サムエルが神様の言葉に従って王を立てるためにエッサイの家を訪ねたとき、ダビデは羊の番をしていました。17章では、ダビデがサウルに自分を紹介するとき、自分は「父の羊を飼う者（34節）」と紹介します。イスラエルの最も偉大な預言者であったモーセも羊飼いの出身であり、アブラハム、イサク、ヤコブも羊を飼って生きていた人々です。イスラエルの偉大な先祖と羊飼いの関係は、かなり深いです。こういうわけで、羊飼いたちにイエス様の誕生が知られていると記録されたのかもかもしれません。しかし私は、これだけがすべての理由ではないと思います。

当時、羊飼いたちは否定的な印象を持たれていました。なぜなら、彼らは自分の仕事のために律法を守ることができなかったからです。ユダヤ人にとって、安息日は必ず守らなければならないものでした。しかし当時の牧畜は、今と同じではない移動式の牧畜でした。羊とヤギが食べる草を求めるために移動しなければならなかったため、彼らは安息日を守ることができませんでした。仕方なかったことですが、安息日を守れないというのは、当時のユダヤ人の信仰にとっては、許せないことでした。また、羊飼いたちは、牧畜のために国境を嫌わず流れ歩きました。当時のユダヤ人たちは、市場や広場のような賑やかな場所から帰ってくると、必ず手を洗いました。これを清めの儀式と言いますが、この儀式を行った理由は、ユダヤ人は神様を信じない異邦人との接触は汚れると思ったからです。しかし、羊飼いは牧畜のためであれば、ユダヤでも異邦の地域でも関係なく行きました。そして、いろいろな異邦人と会うしかありませんでした。このような状況のため、羊飼いの印象は良くありませんでした。それで、羊飼いといえば律法を守れない者、寄留者のようにさすらい者という認識がありました。

しかし天使は、このような人々にイエス様の誕生を知らせました。律法を一生懸命守っていたファリサイ派の人々、神殿で働いていた祭司たち、貴族の中心であったサドカイ派の人々ではなく、否定的な印象を持たれている羊飼いたちにメシアの誕生が知らされたのです。安息日を守ることができず、異邦人と接触し、寄留している彼らが神様に選ばれたのです。そして皮肉なことに、イエス様は、羊飼いのように安息日を守られず、異邦人たちと接触され、寄留されて暮らされました。イエス様の身分も高くなかったでしょう。イエス様には、いつも大工の息子、父ヨセフではなく母マリアの息子という名前が付いて回りました。私は、これもメシアの誕生が羊飼いたちに知らされた理由だと思います。今日の福音書10-11節の言葉です。「天使は言った。『恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。』」

ここで「あなたがた」は誰でしょうか。少なくとも神様の言葉だけを守るために夢中になっている人、力があるので隣人を侮る人ではないと思います。身分の低い者、社会から疎外された者、助けが必要な者、体の弱い者、国を失って寄留している者などが、天使が言った「あなたがた」でしょう。イエス様は、このような人々のためにこの世に来られました。そして、彼らのように布にくるまれて、飼い葉桶に寝かせられていました。これは、イエス様が誰のために来られたのか、誰のためのメシアなのかを示すことだと思います。

天使の降誕告知を聞いた羊飼いたちは、イエス様と会うためにベツレヘムに行きます。そして、そこで自分たちのメシアと会った彼らは、天使が話してくれたことをその所の人々に知らせます。この世のためのメシアが来られたと、このことは神には栄光、地には平和である（14節）と人々に知らせます。羊飼いを通してメシアの誕生が知らされたのです。律法を守らず、清い儀式を行わない彼らが神様のメッセンジャーになったのです。これは、神様に対する信仰が変わったことを示すことだと思います。律法の信仰、つまりユダヤ人だけの信仰から離れ、皆のための信仰になったのです。それで出身や身分とは関係なく、異邦人である私たちも神様を信じることができ、神様も私たちの神様になられたのです。

今日の福音書の羊飼いたちに告知された降誕は、この新しい信仰の出発を知らせるものだと思います。特定された人々ではなく、みんなのために来られたメシア。これを知らせるのがイエス様の降誕告知なのです。皆様のためにイエス様が来られました。そして戦争の中で苦しめられている人々のために、独裁と戦う人々のために、この世の不条理に対立する人々のためにイエス様が来られました。天使の受胎告知を受けたマリアは、このように神様を賛美します。「主はその腕で力を振るい、思い上がる者を打ち散らし、権力ある者をその座から引き降ろし、身分の低い者を高く上げ、飢えた人を良い物で満たし、富める者を空腹のまま追い返されます（ルカ1:51~53）。」この驚くべき賛美が私たちの賛美になりますように。神様が苦しめられる人々の祈りに耳を傾けてくださいますように、主の御名によって祈ります。メリークリスマス！